

第 1 6 6 1 回島根県教育委員会会議 議題書

令和 7 年 4 月 21 日 (月)
日 時
13 時 30 分～

第 1 6 6 1 回教育委員会会議議題

期日 令和 7 年 4 月 21 日 (月)

議 題	
— 公 開 —	
(報告事項)	
第 1 号 教員不足の状況と対策について (学校企画課)	———— 1
第 2 号 令和 8 年度 (令和 7 年度実施) 島根県公立学校教員採用候補者 「特別選考試験」の出願状況について (学校企画課)	———— 2
第 3 号 令和 8 年度 (令和 7 年度実施) 島根県公立学校教員採用候補者 「一般選考試験」の出願状況について (学校企画課)	———— 3
第 4 号 令和 7 年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査について (学校教育課)	———— 4
第 5 号 令和 7 年 3 月公立高校及び特別支援学校高等部卒業者の進路状況 について (学校教育課・特別支援教育課)	———— 5
第 6 号 令和 7 年度子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体 (個人) 文部科学大臣表彰について (学校教育課・社会教育課)	———— 6

教員不足の状況と対策について

1 公立学校における欠員状況

- (1) 令和7年4月1日現在の欠員は、全体で64人（R6：29人）。
- (2) 学級担任に欠員はない（小・中・高・特支）。
- (3) 学校単位で教員不在教科はない（中・高・特支）。

令和7年4月1日現在[速報値]、（ ）は令和6年4月1日の数値

	1年期限付き任用	短期任用 (産休・育休代替等)	計	【参考】 配置必要数
小学校	10人 (4人)	11人 (5人)	21人 (9人)	3,125人
中学校	15人 (3人)	6人 (3人)	21人 (6人)	1,876人
高等学校	12人 (9人)	5人 (3人)	17人 (12人)	1,559人
特別支援学校	1人 (2人)	4人 (0人)	5人 (2人)	955人
計	38人 (18人)	26人 (11人)	64人 (29人)	7,515人

(注) 配置必要数には、県単独の加配を含む。

2 教員不足の要因・背景

近年の大量退職や特別支援学級の増加、学校の抱える課題の複雑化・困難化を背景とした手厚い教員配置（県単独事業を含む。）などにより、毎年、多数の教員確保を行う必要がある一方で、県内人口の減少、教員志望者の減少等により、必要数に見合った教員のなり手を確保できない状況が続いている。

教員志望者減少の背景には、時間外勤務や保護者対応等を含めた勤務環境への懸念・不安等も存在していると考えられる。

3 教員確保に向けた取組

教員確保に向けた直接的な取組と働き方改革及び教職員へのサポート強化を車の両輪として進めていく。

(1) 常勤教員の未配置が生じている学校現場の負担軽減

- ① 「緊急対応非常勤講師」の勤務時間増（年間 875 時間⇒最大年間 1095 時間）・業務内容の柔軟化（授業だけでなく校務も実施可能）【義務：R5～】
欠員補充のための非常勤講師の時数増（最大週 12 時間⇒週 15 時間）【県立：R6～】
- ② 「緊急校務支援員」（教員免許なし）の配置（県 10/10）【義務：R4～】
- ③ 各種制度・事業等の運用緩和（主幹教諭の授業時間数（義務：週 10 時間程度、県立：魅力化主幹週 5 時間）の上限撤廃、加配関係書類の簡素化・省略化、初任研に係る非常勤講師の任用の柔軟な運用など）【R4～】
- ④ 講師配当枠に対する志願者の多い養護助教諭の一部振替配置【義務：R6～】

(2) 年度途中での人材確保

- ① 定年退職者等への再度の働きかけ（退職校長園長会とも連携）
- ② 募集広報等の強化
- ③ 5 月実施の特別選考試験合格者の年度内採用 など

(3) 欠員ゼロに向けた対応（主なもの） ※別紙『しまねの教員確保プラン』参照

- ① 再任用等の促進（選択肢拡大：管理職、指導主事、専科指導、短時間勤務など）
- ② 教員採用試験の見直し（Uターン・Iターン、新卒者、他業種からの転職など）
※ 特に「一般選考試験の前倒し実施」【R7～】「特別選考試験」【R4～】、「島根創生特別枠」【R5～】など
- ③ 教員志望者の裾野拡大（高校生・大学生及び免許保持者へのアプローチ）
 - ・ 高校生対象「教員志望セミナー」の拡充（拠点校 6 校）【R3～】
 - ・ 県内外大学 1、2 年生の学校体験・実習の実施【R5～】
 - ・ プレティーチャーセミナーの実施【R4～】
- ④ 募集広報・教職の魅力発信強化
- ⑤ 相談・サポート体制強化（新規採用者等の定着促進、離職防止）
 - ・ スクールロイヤー・教員サポーターの配置、スクールカウンセラー等配置拡充
- ⑥ 教員籍の行政等勤務者（指導主事・社会教育主事等）等の配置合理化
 - ・ 県教委：配置合理化・・・R5～R8 で計 20 人を学校現場へ（R7 当初で 5 人）
60 歳以上の者の任用・・・R7：38 人（前年度比 1 人増）

※ 国スポ関係職員を除く。

- ⑦ 処遇改善や奨学金返還免除制度の検討（県独自制度の検討＋国への要望） など

【参考】関連データ

	必要教員の主な変動要因			退職・採用・再任用					
	増要因		減要因	④ 退職者 (辞職者含)	新規採用者			⑧ 再任用者 (名簿登載者)	⑨ 定年引上げに 伴う60歳以上継続勤務者 [R6～]
	① 特別支援 学級数 (対象児童 生徒数)	② 少人数学級編 制の県単加配 (課題解決・制 度改正加配含)	③ 児童生徒数		⑤ 採用者 (名簿登載者)	採用試験（前年度実施）の状況			
						⑥ 受験者数	⑦ 倍率 (名簿登載者)		
H13	367 (609)	0	93,019	206	121 (129)	1,568	13.0 (12.2)	0	
H23	492 (1,059)	57	75,006	188	164 (165)	1,245	7.6 (7.5)	24 (26)	
H24	499 (1,069)	43	73,348	235	159 (167)	1,220	7.7 (7.3)	23 (23)	
H25	511 (1,097)	48	72,363	235	156 (166)	1,218	7.8 (7.3)	31 (41)	
H26	504 (1,129)	98	71,379	263	164 (167)	1,152	7.0 (6.9)	44 (54)	
H27	524 (1,184)	127	70,335	259	226 (233)	1,180	5.2 (5.1)	50 (52)	
H28	537 (1,272)	175	69,697	294	225 (230)	1,251	5.6 (5.4)	81 (86)	
H29	534 (1,306)	179	68,858	290	209 (216)	1,204	5.8 (5.6)	133 (141)	
H30	554 (1,468)	193	68,156	303	216 (216)	1,184	5.5 (5.5)	168 (198)	
R1	578 (1,527)	198	67,565	304	245 (264)	1,142	4.7 (4.3)	203 (242)	
R2	614 (1,672)	179	67,031	316	265 (278)	998	3.8 (3.6)	271 (300)	
R3	617 (1,783)	148	66,409	363	260 (284)	1,042	4.0 (3.7)	307 (339)	
R4	638 (1,899)	138	65,939	320	280 (302)	906	3.2 (3.0)	379 (406)	
R5	652 (2,011)	122	65,571	174	271 (294)	891	3.3 (3.0)	406 (451)	
R6	649 (2,096)	120	64,840	315	277 (327)	996	3.6 (3.0)	252	142
R7	661 (2,176)	94	63,624		281 (329)	959	3.4 (2.9)	245	168

※ ①～③は5月1日現在の数値、④は年度末現在、⑤⑧⑨は4月1日の数値

(参考) 少人数学級編制の変遷

H15：小1 30人学級導入

H16：小2 30人学級導入

H26：小3・小4・中1 35人学級導入

H27：小5・中2 35人学級導入

H28：小6・中3 35人学級導入

R3：小2 32人学級、中3 38人学級に変更、国学級編制基準変更：小2 35人

R4：中2 38人学級に変更、国学級編制基準変更：小3 35人

R5：国学級編制基準変更：小4 35人

R6：国学級編制基準変更：小5 35人

R7：国学級編制基準変更：小6 35人

しまねの教員確保プランの全体像

R7.4月現在

処遇改善

常勤講師の給料表上の適用制限撤廃、退職手当支給
非常勤講師の期末・勤勉手当支給

R4～

再任用管理職、
再任用指導主事・
社会教育主事の拡大

R6～

特例任用
定年前再任用短時間
(暫定再任用短時間)

R7新規再任用率
67.3%(R5:49.5%)

常勤講師・非常勤講師

他県で定年退職した教員

R4～

Uターン・Iターン
フェア(年2回)

学 校

※採用試験倍率は年々低下 R6:2.9倍
※新規採用の3～4割は常勤講師

R4～
再任用者の拡大
業務見直し

R5～R7
削減
事務振替

正規教員は計画通り採用で
きて、常勤講師のなり手が
県内の教育界では大幅に
不足しているのが、教員不足
の正体

R4～

特別選考試験【5月と10月実施】
※面接試験のみ

R4…27名受験、14名採用
(Uターン8名、Iターン5名、その他1名)
R5…26名受験、13名採用
(Uターン4名、Iターン7名、その他2名)
R6…35名受験、21名採用
(Uターン6名、Iターン14名、その他1名)
R7…39名受験

事務職員
に振替

本庁・教育事務所・教育センター・社会教育施設

他県で働く現職教員・退職教員

島大教育学部附属義務教育学校

市町村教育委員会

R5～R7
割愛削減R5～R7
割愛削減
派遣削減

新卒者のほか
①他県教員(現職・退職者)
②若手免許保持者で異業種
に就職した者が
ターゲット

異業種へ就職した者

R4～
プレティーチャー
セミナー
R5～
採用試験加点

大学との連携強化

R5～
県内2大学1・2回生
学校体験(5日間)
R6:26名参加
県外大学2回生
3日間教育実習受入れ
R6:63名参加(松江・吉賀)
R7～
採用試験前倒し実施

市町村で事務
職員に振替

大学生 ※島大教育学部の教員就職率(68.6%)
(島根県教員就職率28.8%) R5調べ

鳥取県からも
島大附属に割愛派遣
配置適正化による削減

高校生

教員志望セミナー「島大教師塾」「県立大まなゼミ」拡充

令和8年度（令和7年度実施）島根県公立学校教員採用候補者
「特別選考試験」の出願状況について

1 試験の目的

30～40 歳代の中堅層の不足等を踏まえ、即戦力となる人材を早期に確保するため。

2 出願資格

次の(1)又は(2)のいずれかで、出願する校種・職種の教員免許状を所有している者

- (1) 島根県外の国公立学校で正規教員として3年以上勤務している者（現職に限る）
- (2) 過去10年以内に、島根県内外の国公立学校で正規教員として3年以上勤務していた者

3 選考試験

- (1) 試験内容、試験日及び会場

試験内容	試験日	会場
個人面接	令和7年5月4日(日・祝)	島根県職員会館 島根県教育センター・自治研修所【追加】

- (2) 面接方法

1回40分程度の面接を2回実施

4 出願状況

- (1) 校種別出願者数等

区分	出願者数	【参考】 R6.5 実施 特別選考試験 出願者数
小学校教諭	4名	13名
中学校教諭	9名	8名
高等学校教諭	24名	4名
特別支援学校教諭	2名	1名
合計	39名	26名

- (2) 出願資格別出願者数

- ・ 県外正規現職教員（上記2(1)）：21名
- ・ 過去正規教員経験者（上記2(2)）：18名

令和8年度（令和7年度実施）島根県公立学校教員採用候補者
「一般選考試験」の出願状況について

1 出願状況

(1) 全体の状況

出願者数は、1,182名※（昨年度1,096名） 倍率は、3.3倍（昨年度3.2倍）

（会場別内訳：県内 663名（昨年度656名）、大阪 384名（昨年度275名）、東京 63名（昨年度89名）、福岡 38名（昨年度32名）、全免除 34名（昨年度44名））

※ 出願者数は、併願者の第1志望及び第2志望ともに計上（併願者数 33名（昨年度41名））

(2) 出願者数と倍率 ※（ ）は昨年度

校種・職種	採用予定者数	出願者数	増減	倍率
小学校教諭※ ¹	150名程度（150名程度）	344名（320名）	24名	2.3（2.1）
中学校教諭※ ¹	130名程度（110名程度）	318名（295名）	23名	2.4（2.7）
高等学校教諭	40名程度（40名程度）	297名（290名）	7名	7.4（7.3）
特別支援学校教諭※ ¹	25名程度（25名程度）	45名（56名）	▲11名	1.8（2.2）
養護教諭	10名程度（10名程度）	145名（110名）	35名	14.5（11.0）
栄養教諭	1名程度（2名程度）	29名（25名）	4名	29.0（12.5）
障がいのある方を対象とした募集※ ²	3名程度（3名程度）	〔4名〕（4名）	0名	
島根かみあり国スポ競技力向上枠	若干名（若干名）	4名（0名）	4名	
オリンピック等対象トップアスリート特別枠	若干名（－）	0名（－）	－	
合計	360名程度（340名程度）	1,182名（1,096名）	86名	3.3（3.2）

※1 島根創生特別枠の出願者数19名を含む。

※2 すべての校種・職種で募集。出願する校種・職種を含む。

(3) 特別枠出願者数の内訳 ※（ ）は昨年度

特別枠	校種・職種等		採用予定者数	出願者数
島根創生特別枠	小学校教諭	全県	20名程度 ※一般枠の募集人数を含む （20名程度）	10名（7名）
		数理全県		0名（0名）
		英語全県		0名（0名）
		特別支援教育担当		0名（1名）
	中学校教諭	全県	15名程度 ※各教科の募集人数は1～2名程度 ※一般枠の募集人数を含む （10名程度）	7名（6名）
		特別支援教育担当		0名（0名）
	特別支援学校教諭	小学部	3名程度 ※一般枠の募集人数を含む （3名程度）	2名（1名）

島根かみ あり国ス ポ競技力 向上枠※ ¹	中学校教諭	全県	保健体育	若干名 ※一般枠の募集人数に含 まない (若干名)	0名 (0名)
	高等学校教諭	全県			3名 (0名)
	特別支援学校教諭	中学・高等部			1名 (0名)
オリン ピアン 等対象 トップ アスリ ート特 別枠 【新規】	小学校教諭	全県	保健体育	若干名 ※一般枠の募集人数に含 まない	0名 (—)
	中学校教諭	全県			0名 (—)
	高等学校教諭	全県			0名 (—)
	特別支援学校教諭	小学部			0名 (—)
		中学・高等部			0名 (—)

※1 対象競技は、体操競技、男子新体操、ハンドボール、水泳（飛込）

(4) 併願者数 ※ () は昨年度

	第1志望	第2志望(併願先)	出願者数
ア	中学校教諭(全募集区分・教科)	小学校教諭(全募集区分)	20名 (19名)
イ	中学校教諭(技術、家庭受験者以外)	中学校教諭(技術、家庭)	0名 (0名)
ウ	高等学校教諭(全募集区分・教科)	小学校教諭(全募集区分)	4名 (4名)
エ	高等学校教諭(情報受験者以外)	高等学校教諭(情報)	6名 (7名)
オ	高等学校教諭(全募集区分・教科)	特別支援学校教諭(中学部、中 学・高等部、高等部)	1名 (5名)
カ	特別支援学校教諭(中学部、中 学・高等部、高等部)	特別支援学校教諭(小学部)	2名 (6名)

(5) 島根独自の特色ある採用への出願状況 ※ 上記(2)の内数、() は昨年度

募集区分等	校種・職種	採用予定者	出願者数
小学校の算数・理科分野で高い専門性を持つ者	小学校	10名程度 (12名程度)	5名 (6名)
小学校英語教育のリーダー的役割を担う教員	小学校	10名程度 (10名程度)	8名 (9名)
小学校の特別支援教育担当	小学校	若干名	4名 (7名)
中学校の特別支援教育担当	中学校	若干名	8名 (4名)
石見地域・隠岐地域限定採用	小学校	20名程度 (20名程度)	10名 (19名)
	中学校	23名程度 (24名程度)	26名 (30名)
	高等学校	若干名 (若干名) ※隠岐地域のみ	3名 (3名)
県外国公私立学校現職教員への特例 (第1次試験全免除)	小・中・特	—	11名 (11名)
前年度第2次試験A評価者等への特例 (第1次試験全免除)	全校種・職種	—	6名 (12名)

前年度第2次試験「繰り上げ登載候補者」のうち名簿登載にならなかった者への特例 (第1次試験全免除)	全校種・職種	—	17名 (21名)
常勤講師等経験者のうち前年度第2次試験受験対象者への特例【一部要件変更】 (第1次試験一部免除及び加点)	全校種・職種	—	130名 参考 (153名)
石見地域・隠岐地域の限定受験者のうち、市町村教育委員会教育長から推薦された者への特例【一部要件変更】 (第1次試験一部免除及び加点)	小・中 地域限定	—	1名 参考 (4名)
国公立学校正規教員経験者への特例 (第1次試験一部免除及び加点)	小・中・特	—	9名 (7名)
県外国公立学校現職教員への特例 (第1次試験加点)	高・養・栄	—	8名 (3名)
国公立学校正規教員経験者への特例 (第1次試験加点)	高・養・栄	—	10名 (2名)
常勤講師等への特例【一部要件変更】 (第1次試験加点)	全校種・職種	—	107名 参考 (116名)
非常勤講師等への特例【一部要件変更】 (第1次試験加点)	全校種・職種	—	5名 参考 (7名)
第84回国民スポーツ大会に向けた指導者等への特例 (第1次試験加点)	全校種・職種	—	12名 (7名)

2 試験内容等

(1) 第1次試験

① 内容等

試験内容	期日	会場
教職教養試験 専門教養試験 論述試験	5月17日(土)	松江会場：くにびきメッセ 大阪会場：CIVI 研修センター新大阪東【変更】 東京会場：都道府県会館 福岡会場：TKP 博多駅筑紫口ビジネスセンター

② 結果の通知

令和7年6月4日(水)午前9時に学校企画課ホームページに掲載するとともに、教員採用試験受験等申込みシステムのマイページで通知する。

(2) 第2次試験

① 内容等

試験内容	期日	会場
個人面接(模擬授業等・場面指導含む) 実技	6月28日 (土) ～ 7月11日 (金)	【県内】 松江北高等学校 島根県教育センター・自治研修所他 【県外】※小学校及び特別支援学校専願受験者のみ 大阪会場：新大阪丸ビル新館 東京会場：都道府県会館

※ 模擬授業等課題を受験者に通知

※ 追試験は7月20日(日)に実施

(対象) 新型コロナウイルス感染や災害などやむを得ない事情により第2次試験を受験できなかった者

② 結果の通知

令和7年8月6日(水)午前9時に学校企画課ホームページに掲載するとともに、教員採用試験受験等申込みシステムのマイページで通知する。

※ 第2次試験不合格者のうち、若干名を繰り上げ登載候補者として通知。名簿登載者の辞退により採用予定者数に満たない場合には、繰り上げ登載候補者を名簿に登載する。

報 告 第 4 号
学 校 教 育 課

令和7年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査について

1 学力検査結果の概要

本概要は、令和7年3月5日に実施した学力検査における受検生の解答と得点状況を総括し、受検生の学力の傾向を示している。なお、過去の平均点や得点状況のデータも参考として掲載しているが、年度により問題の難易に差があるため、単純に経年比較することはできない。

【全般】

本検査は、中学校学習指導要領に沿って、日頃の学習で積み上げられた基礎学力を測るものであるとともに、問題作成にあたっては、知識及び技能に加えて、思考力、判断力、表現力等を問う問題を重視した。

学力検査結果全般から読み取れる学力の傾向は次のとおりである。

- ①基礎的・基本的な事項については概ね定着している。
- ②文章や図表を正確に読み取ったうえで何が問われているかを正確に把握し、複数の知識及び技能を相互に関連付けて活用する力や、適切に表現する力に課題がある。

【国語】

知識及び技能に関しては、正答率の高い問題が複数あり、基本的な知識が定着している様子がうかがえる。思考力、判断力、表現力等のうち「読むこと」では、言葉の意味や働き等に注目して文章を読解することに苦手さがみられた。「書くこと」では、目的に応じて資料を適切に引用し、提案文を書く問いを出題したが、最後まで書けていない答案が多かった。また、目的や条件に応じて書いていない答案も多く、内容の検討や記述の力が十分身に付いていないと考える。過去2年と比べて問題全体の無解答率は減少しており、粘り強く解答しようとする様子がうかがえる。引き続き、学びに向かう力の育成を図るとともに、論理的に考える力を身に付け、活用する力の伸長が望まれる。

【社会】

基礎的・基本的な事項を問う問題については正答率が比較的高いことから、三分野それぞれについての基礎的・基本的な知識及び技能は概ね身に付いていると考えられる。一方、異なる種類の資料に関連付けて考える問題や、考えたことを決められた字数内で表現する問題については正答率が低かった。習得した概念的知識や資料活用 of 技能を用いて、社会的事象を多面的・多角的に考察し、考えたことや判断したことを定められた条件のもとで適切に表現する力の育成が望まれる。

【数学】

基本的な知識を問う問題や、計算技能をみる問題については正答率が高く、基礎的・基本的な事項の定着がうかがえる。また、問題場面における考察の対象を捉えることや、必要な情報を読み取ることはできている。ただ、読み取った情報やそれまでの結果を、問題解決に活用していくことが十分でない様子がみられる。式や表、グラフなどを関連付けて考え、数学的表現を用いて説明することに課題がある。数学的に処理することだけでなく、過程を振り返るなどして、数学を活用して論理的に考察する力の育成が望まれる。

【理科】

知識及び技能をみる問題の正答率は高く、基礎的・基本的な事項はよく身に付いている。また、思考力、判断力、表現力等をみる問題の正答率が上昇しており、知識を日常生活と関連付ける授業や探究の過程を通した授業の充実がうかがえる。一方、結果を分析して解釈し、表現する問題や論述する問題の正答率は低く、無解答率も高かった。科学的に探究する力を育成するために、観察、実験等の結果を既習事項と関連付けて理論に基づいて考察したり、根拠をもとに論理的に表現したりしていくことが望まれる。

【英語】

情報を正確に聞き取ったり読み取ったりする問題の正答率は概ね高かったが、場面や状況に応じたふさわしい語句や表現を使って英文を書く問題、適切な語順の英文を構成する問題の正答率はやや低かった。さらに、複数の情報を組み合わせて判断する問題、読み取った英文の要点を英語でまとめる問題、さらに聞き取ったり読み取ったりした内容をもとに自分の考えを英語で表現する問題の正答率が低かった。目的や場面、状況の設定された幅広い言語活動の中で、複数の技能を効果的に統合して活用する力の育成が望まれる。

2 学力検査得点状況について

(1) 平均点・標準偏差

年度 教科	令和7年度		令和6年度		令和5年度	
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
国語	25.4	7.6	28.5	8.8	30.6	8.6
社会	26.9	9.4	27.4	9.6	27.9	9.0
数学	22.1	10.2	26.8	10.9	26.3	10.5
理科	25.2	9.6	25.2	9.5	29.8	11.6
英語	25.8	11.7	27.3	11.6	24.6	11.4
総得点	125.0	43.5	135.1	45.6	139.2	45.6

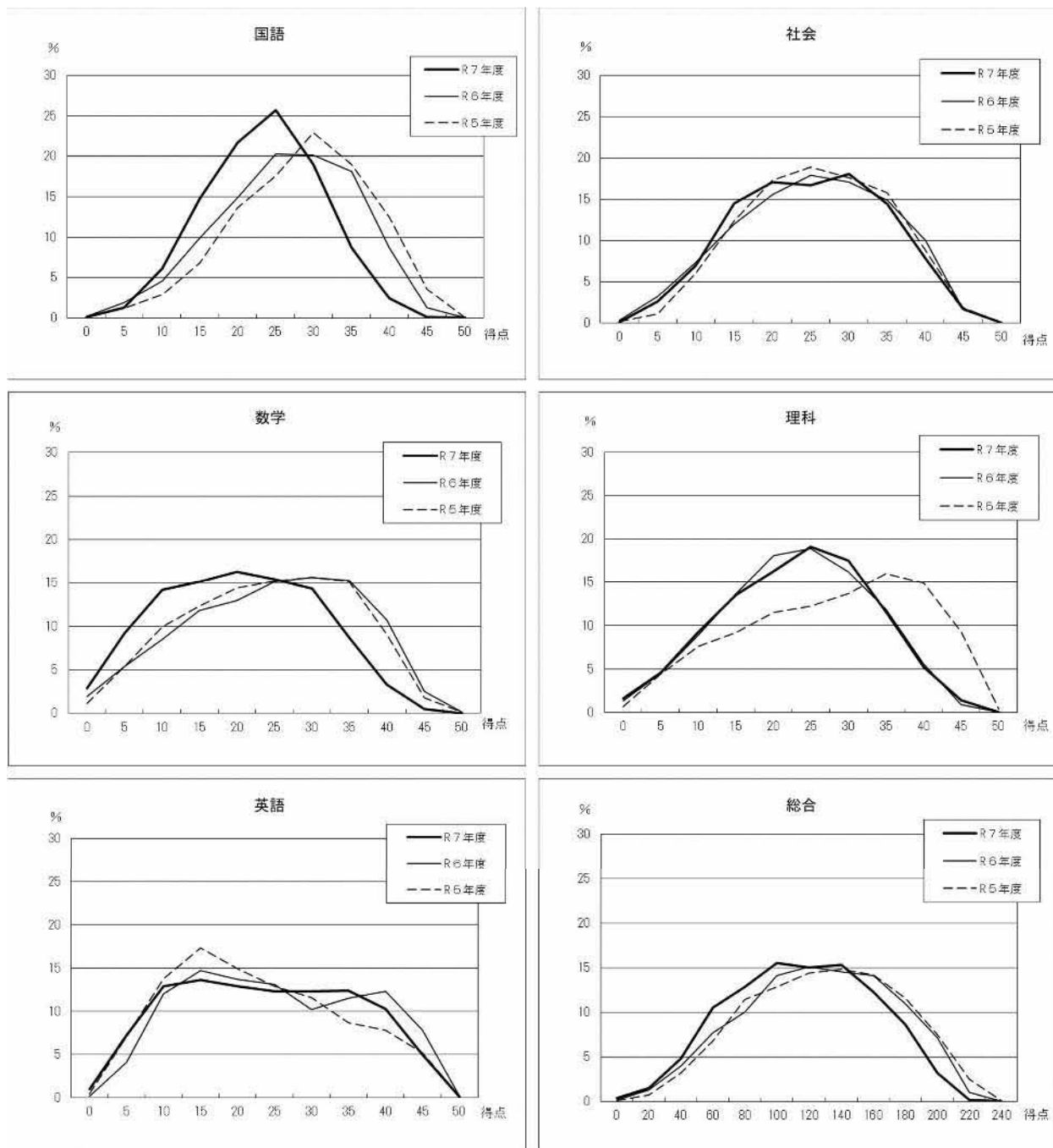
※各教科50点満点、総得点250点満点

※標準偏差…得点の散らばり具合を数値で表したものの。大きい値であれば幅広い得点分布となり、小さい値であれば平均点付近に集中した分布となる。

(2) 総得点分布

年度 得点	令和7年度		令和6年度		令和5年度	
	人数	%	人数	%	人数	%
220点以上	5	0.2%	35	1.0%	98	2.6%
200～219	82	3.2%	246	7.1%	286	7.5%
180～199	223	8.6%	378	10.9%	442	11.6%
160～179	318	12.3%	486	14.1%	538	14.2%
140～159	397	15.3%	500	14.5%	563	14.8%
120～139	389	15.0%	523	15.1%	547	14.4%
100～119	401	15.5%	487	14.1%	485	12.8%
80～99	331	12.8%	346	10.0%	432	11.4%
60～79	271	10.5%	267	7.7%	258	6.8%
60未満	174	6.7%	191	5.5%	150	3.9%
計	2591		3459		3799	

(3) 得点分布



(4) 各教科を担当する教員の学力検査に対する意識調査結果

教科	校種	内容の程度			問題の分量		
		もっと下げる	ほぼ適当	もっと上げる	多い	ほぼ適当	少ない
国語	中学校	23.3%	75.6%	1.2%	34.9%	65.1%	0.0%
	高校	22.9%	77.1%	0.0%	54.3%	45.7%	0.0%
社会	中学校	1.2%	93.0%	5.8%	5.8%	91.9%	2.3%
	高校	0.0%	100.0%	0.0%	2.9%	97.1%	0.0%
数学	中学校	3.5%	90.7%	5.8%	9.3%	90.7%	0.0%
	高校	2.9%	97.1%	0.0%	8.6%	91.4%	0.0%
理科	中学校	2.4%	94.0%	3.6%	3.6%	96.4%	0.0%
	高校	14.3%	80.0%	5.7%	2.9%	94.3%	2.9%
英語	中学校	2.3%	93.0%	4.7%	3.5%	94.2%	2.3%
	高校	2.9%	97.1%	0.0%	2.9%	94.3%	2.9%

3 今後の予定

6月に、「令和7年度島根県公立高等学校入学者選抜の結果と分析」を作成し、県内中学校、高等学校等へ周知する。

令和7年3月公立高校及び特別支援学校高等部卒業者の進路状況について

1 令和7年3月公立高校卒業者の進路状況（県立、市立の全日制、定時制）

(1) 進路状況の年度別推移

年度	卒業 者数	進学			就職			進学 就職計			未定
			県内	県外		県内	県外		県内	県外	
R4	4,319人	3,232人 (74.8%)	1,107人 34.3%	2,125人 65.7%	838人 (19.4%)	667人 79.6%	171人 20.4%	4,070人	1,774人 43.6%	2,296人 56.4%	214人 進学204人 就職10人
R5	4,119人	3,070人 (74.5%)	973人 31.7%	2,097人 68.3%	812人 (19.7%)	668人 82.3%	144人 17.7%	3,882人	1,641人 42.3%	2,241人 57.7%	212人 進学199人 就職13人
R6	4,239人	3,170人 (74.8%)	1,023人 32.3%	2,147人 67.7%	817人 (19.3%)	634人 77.6%	183人 22.4%	3,987人	1,657人 41.6%	2,330人 58.4%	229人 進学213人 就職16人

※諸事情による未定者は除く

(2) 進学の状況

()は令和6年3月の数値

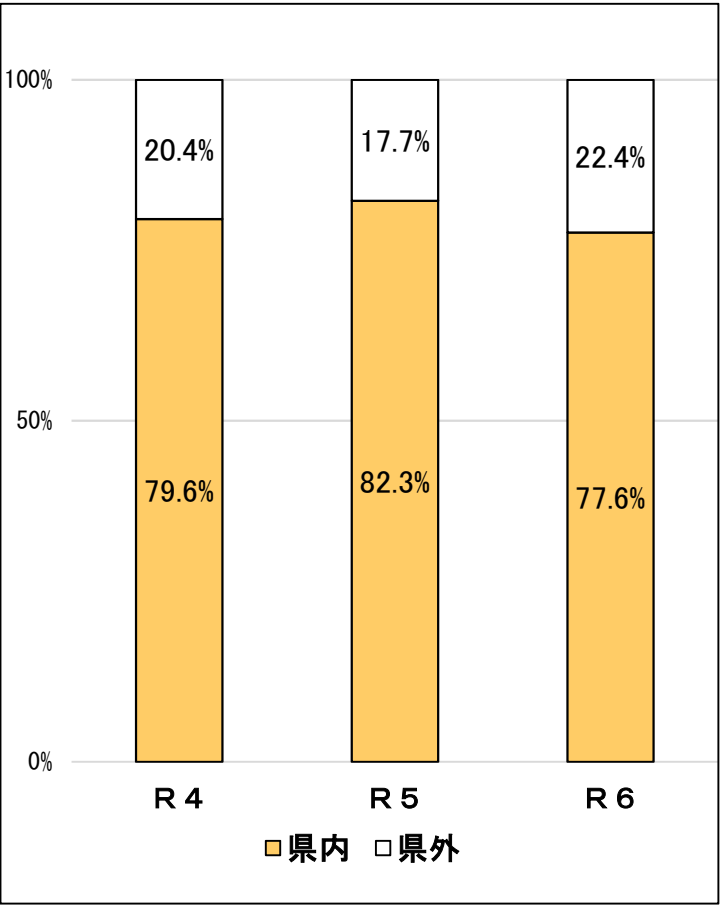
進学区分		人 数			割 合		
		県内	県外	合計	県内	県外	全体
四年制大学	国公立	485 (422)	574 (573)	1,059 (995)	45.8% (42.4%)	54.2% (57.6%)	33.4% (32.4%)
	私立		1,063 (929)	1,063 (929)		100.0% (100.0%)	33.5% (30.3%)
	計	485 (422)	1,637 (1,502)	2,122 (1,924)	22.9% (21.9%)	77.1% (78.1%)	66.9% (62.7%)
短期大学	国公立	67 (55)	5 (17)	72 (72)	93.1% (76.4%)	6.9% (23.6%)	2.3% (2.3%)
	私立	13 (12)	76 (93)	89 (105)	14.6% (11.4%)	85.4% (88.6%)	2.8% (3.4%)
	計	80 (67)	81 (110)	161 (177)	49.7% (37.9%)	50.3% (62.1%)	5.1% (5.8%)
専修学校		379 (411)	415 (462)	794 (873)	47.7% (47.1%)	52.3% (52.9%)	25.0% (28.4%)
公共職業能力開発施設		58 (55)	7 (16)	65 (71)	89.2% (77.5%)	10.8% (22.5%)	2.1% (2.3%)
その他(高専編入・留学等)		21 (18)	7 (7)	28 (25)	75.0% (72.0%)	25.0% (28.0%)	0.9% (0.8%)
合 計		1,023 (973)	2,147 (2,097)	3,170 (3,070)	32.3% (31.7%)	67.7% (68.3%)	100.0% (100.0%)

(3) 就職の状況

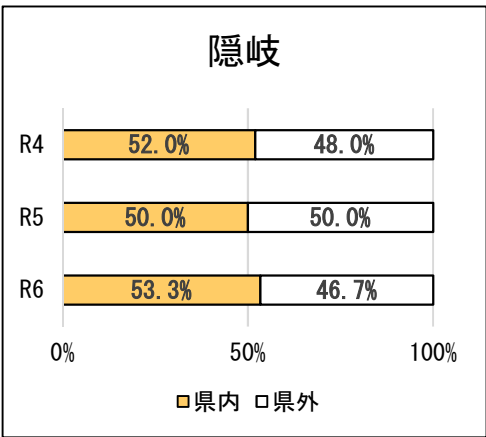
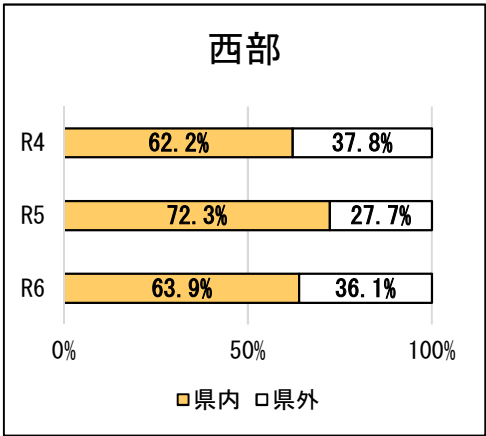
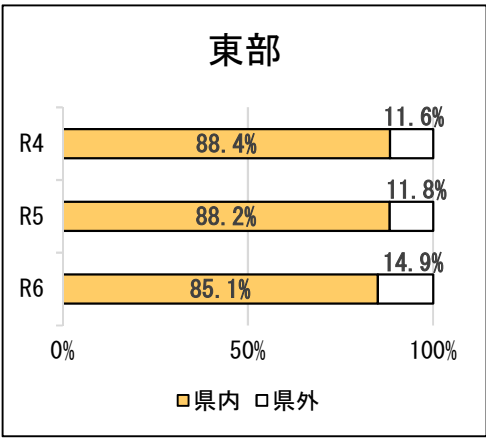
年度	卒業者数	就職希望者数(人)			就職希望者の割合	就職内定者数(人)			内定率	就職未内定者数(人)		
		県内	県外	小計		県内	県外	小計		県内	県外	小計
R4	4,319	674	174	848	19.6%	667	171	838	98.8%	7	3	10
R5	4,119	678	147	825	20.0%	668	144	812	98.4%	10	3	13
R6	4,239	649	184	833	19.7%	634	183	817	98.1%	15	1	16

【参考】

1 就職内定者の県内、県外別割合



2 地区別就職内定者の県内、県外別割合



〔県内就職の状況〕

1 県全体

県内就職内定者の割合は、対前年度比で昨年度は2.7ポイントの増、令和6年度は4.7ポイントの減となった。

2 地区別

県内就職内定者の割合は、対前年度比で、令和6年度は、東部地域は3.1ポイントの減、西部地域は8.4ポイントの減、隠岐地域は3.3ポイントの増となった。

2 令和7年3月 特別支援学校高等部卒業者の進路状況について(令和7年3月末日現在)

(単位:人、%)

(単位:人)

年度	卒業 者数	進学			職業訓練 高等技術校他	就職 企業等	障害福祉サービス等						障害 児 施設	入院	未定	卒業時未定者 R7.3.31現在の状況				
		特別支 援学校 専攻科	大学・ 短大	各種学 校(専 門学校 等)			就労継 続 A型	就労継 続 B型	就労移 行支援	自立訓 練 (機能訓 練・生活 訓練)	生活介 護	その他				進学	就職	* 福 サ	未 定	不 明
R2	181	0	2	0	5	65	4	49	5	2	28	1	0	1	19	3	6	6	2	2
		2			5	65	89						0	1	19					
	割合	1.1%			2.8%	35.9%	49.2%						0.0%	0.6%	10.5%					
R3	179	0	0	5	2	59	7	51	4	1	35	5	2	2	6	0	0	1	2	3
		5			2	59	103						2	2	6					
	割合	2.8%			1.1%	33.0%	57.5%						1.1%	1.1%	3.4%					
R4	192	0	0	4	4	71	5	59	2	1	35	3	2	0	6	0	2	2	1	1
		4			4	71	105						2	0	6					
	割合	2.1%			2.1%	37.0%	54.7%						1.0%	0.0%	3.1%					
R5	149	1	3	3	7	53	6	38	4	1	25	0	1	0	7	0	3	1	2	1
		7			7	53	74						1	0	7					
	割合	4.7%			4.7%	35.6%	49.7%						0.7%	0.0%	4.7%					
R6	177	2	0	0	2	70	13	51	2	0	28	1	2	0	6	卒業時未定者 R7.3.31現在の移行予定				
		2			2	70	95						2	0	6					
	割合	1.1%			1.1%	39.5%	53.7%						1.1%	0.0%	3.4%	0	2	2	2	0

* 福サ…障害福祉サービス等

報告第6号
学校教育課
社会教育課

令和7年度子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人）
文部科学大臣表彰について

1 趣 旨

読書活動の一層の推進を図り、国民の間に広く子供の読書活動についての関心と理解を深めるために、子供が積極的に読書活動を行う意欲を高める活動において特色ある優れた実践を行っている学校・園・図書館・団体（個人）に対し、その実践をたたえ文部科学大臣が表彰する。

2 区 分

- (1) 学校・園：小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校及び
特別支援学校、幼稚園、認可保育所、認定こども園（全類型）
- (2) 図 書 館：図書館法第2条に規定する公立、私立の図書館
- (3) 団体(個人)：団体又は個人

3 被表彰団体

- (1) 学校・園：社会福祉法人川本福社会 川本保育所（川本町）
大田市立川合小学校（大田市）
松江市立第二中学校（松江市）
島根県立益田養護学校（益田市）
- (2) 図 書 館：松江市立中央図書館（松江市）
- (3) 団 体：スウィートポテトの会（大田市）

4 主な活動内容等

別紙のとおり

5 表彰式

- (1) 日 時 等：令和7年4月23日（水） 13：00～17：00
「子どもの読書活動推進フォーラム」において実施
- (2) 会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

被表彰団体の主な活動内容等

	団 体 名	主 な 活 動 内 容
学 校 ・ 園	社会福祉法人川本福祉 会 川本保育所 (川本町) ・学級数 6学級 ・園児数 46人	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスに公立図書館司書が選書した絵本を置き、毎日保育士が読み聞かせを行い、毎週1冊自分で選んだ絵本を貸し出すなど、いつでも絵本を楽しめる環境づくりを以前より行っている。 近年は、読書を通じた親子のふれあいをテーマとした活動に力を入れているほか、散歩やイベントにあわせて図書館を訪問する機会も積極的につくっている。 町内の読み聞かせボランティア団体、老人会、中高生を保育所に招いて読み聞かせをしてもらうなど、地域との交流の中にも読書活動を取り入れている。職員は読み聞かせの研修会へ毎年参加し、スキルアップにも努めている。 以上のような取組によって、進んで絵本を読まなかった園児が楽しそうに絵本を読む姿が見られるようになり、読書量も増加する等の成果が上がっている。
	大田市立川合小学校 (大田市) ・学級数 6学級 ・児童数 60人	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館活用を通して「基礎学力を生かした主体的に表現できる児童の育成」を目指し、教職員が一体となって取り組んでいる。 児童会委員会活動も積極的に行われており、教職員と一緒に図書館の運営・活用を進めるほか、縦割り班での読書チャレンジ等の企画にも取り組んでいる。 各学年に応じたおすすめ本の選定や冊数の設定をし、全校児童が完読賞を目指して取り組み意欲を高める工夫もされている。また、読み語りを全学年で実施したり、生活習慣に読書を組み入れて家族と一緒に家読に取り組んだり、家庭や地域ボランティアとの連携を図りながら読書活動が推進されている。
	松江市立第二中学校 (松江市) ・学級数 26学級 ・児童生徒数 731人	<ul style="list-style-type: none"> 多くの学校が目標としている児童生徒の貸出冊数の増加ではなく、「全教科・領域における図書館活用教育の推進」を目標として取り組んだ点に特徴がある。さまざまな教科を担当する全教職員が一丸となって年間を通じて研究・実践を行う校内体制を充実させ、意識的に図書館を活用したことで、1クラスあたりの図書館を活用した授業時数は、前年度より約10時間増加した。 生徒会図書委員会とも連携を図り、生徒の発想を大切にしながら新入生ウェルカム読み聞かせ、朝の出張貸出、ミニビブリオバトル等の新たな読書活動に積極的に挑戦している。
	島根県立益田養護学校 (益田市) ・学級数 26学級 ・児童生徒数 76人	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人一人の読書活動を支えるために、小・中・高等部の各学部に図書館担当者を配置し、学校司書を含めた担当者会を定期的実施している。この学部担当者が中心となり、子どもの興味関心や授業者の求める図書資料に対し、子どもの障がいの状態や学習内容を踏まえた提案をしたり、授業での図書館活用を推進したりしている。 子どもの読書活動を推進するための特色ある取組例として、食育をテーマに、学校司書と栄養教諭が計画的に自校給食の良さを生かした連携を行ったり、学校図書館が高等部生徒の校内実習の場として提供され生徒の学校図書館利用を促す機会になったりしている。 これらの学校図書館を位置付けた体制や取組は、子どもの読書活動への意欲の高まりにつながっており、それぞれの障がいの状態や小学部から高等部までの発達段階を踏まえた上で、子どもの積極的な読書活動につながる取組を充実させている。

図 書 館	<p>松江市立中央図書館 (松江市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設 昭和61年6月 ・職員数 30人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児期においては、家庭における絵本に親しむ習慣づくりと絵本をとおした親子の触れ合いを目的に、4 か月健診会場での読書普及活動を実施。その後は、成長の段階に合わせ、「ストーリーテリングのおはなし会」や、幼稚園、小学校、中学校に語り手を派遣する「お話出前事業」などの取組を行っている。 ・ 「語り手養成講座」や「語り手のための講座」も定期的に開催し、講座受講の修了者をボランティアとして派遣している。このように、お話を届ける側の育成にも力を入れており、これも、子どもたちが本に触れ合う機会を作るにあたり、大きな役割を担っている。 ・ これらの活動が、子どもやその保護者の読書への興味・関心の向上に寄与し、本の好きな子の育成や、子どもが本に触れ合う機会の醸成につながっている。 ・ 令和5年10月にはリニューアルオープンを行い、2階には専用の「おはなしのへや」を新設。周囲を気にすることなく落ち着いた環境の中で、おはなし会などを実施できる環境を整えた。
団 体	<p>スウィートポテトの会 (大田市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発足 平成18年7月 ・会員数 5人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大田市中央図書館でのストーリーテリングと、依頼を受けての市内小学校での出前ストーリーテリングが主な活動で、大田市立図書館職員の協力を受けながら実施されている。 ・ ストーリーテリング（語り聞かせ）による読書推進活動を行っている団体は大田市内で唯一であり、読み聞かせとは異なる形で子どもたちやその親世代等が物語や本・読書と触れ合える機会を長期間にわたり提供していることは、多様な子どもたちの読書機会の確保に大きく貢献している。

(学級数及び児童生徒数は令和6年5月1日現在)

過去の被表彰団体等（平成17年度以降）

年度	学校 (令和6年度から「学校・園」)	図書館	団体（個人）
H17	浜田市立松原小学校	六日市町立図書館	ブックランド古志(出雲市)
	川本町立三原小学校		
	益田市立豊川小学校		
H18	松江市立大庭小学校	かわもと図書館	大東町子ども読書会(雲南市)
	斐川町立西野小学校		
	江津市立青陵中学校		
H19	安来市立井尻小学校	(該当なし)	桜江町読書普及協議会子ども読書推進部 (江津市)
	出雲市立窪田小学校		
	川本町立川本西小学校		
H20	東出雲町立東出雲中学校	松江市立図書館	おはなしの部屋(隠岐の島町)
	飯南町立赤来中学校		
H21	東出雲町立掛屋小学校	大田市立大田市中央図書館	伯太町子ども読書クラブ (安来市)
	雲南市立加茂小学校		
	海士町立海士小学校		
H22	出雲市立久多美小学校	出雲市立平田図書館	なかよしおはなし会（斐川町）
	大田市立久手小学校		
	隠岐の島町立有木小学校		
H23	松江市立宍道小学校	邑南町立図書館石見分館	掛合町子ども読書連絡協議会 (雲南市)
	斐川町立荘原小学校		
	大田市立五十猛小学校		
H24	邑南町立石見中学校	出雲市立ひかわ図書館	おはなしさんぽ（出雲市）
	海士町立福井小学校		
H25	浜田市立原井小学校	海士町中央図書館	読書ボランティアグループ ルピナス（川本町）
	隠岐の島町立西郷小学校		
H26	松江市立乃木小学校	安来市立図書館	河野美智子氏（個人・浜田市）
	大田市立北三瓶小学校		
H27	大田市立高山小学校	益田市立図書館	ちいさなろうそくの会（邑南町）
	浜田市立三階小学校		
H28	松江市立意東小学校	出雲市立出雲中央図書館	読書ボランティアさくらんぼ (出雲市)
	雲南市立佐世小学校		
	大田市立第二中学校		
H29	松江市立法吉小学校	雲南市立加茂図書館	チェルシー（海士町）
	浜田市立弥栄中学校		
	吉賀町立六日市小学校		
H30	安来市立十神小学校	浜田市立中央図書館	つくしんぼの会（大田市）
	大田市立仁摩小学校		
	益田市立高津小学校		
H31	安来市立社日小学校	島根県立図書館	こぐまちゃんくらぶボランティア (雲南市)
	大田市立大田小学校		
	奥出雲町立布勢小学校		
R2	松江市立竹矢小学校	(該当なし)	おはなしのんの（安来市）
	江津市立渡津小学校		
R3	松江市立島根小学校	(該当なし)	読み聞かせグループ ダンボの会 (大田市)
	隠岐の島町立中条小学校		
	松江工業高等学校		
R4	江津市立郷田小学校	西ノ島町コミュニティ図書館	おはなしbaum（松江市）
	安来市立第一中学校		
R5	雲南市立掛合小学校	隠岐の島町立隠岐の島町図書館	おはなしレストラン（県立大学）
R6	安来市立安来幼稚園	雲南市立大東図書館	読み聞かせサポーター「きらりんこ」 (出雲市)
	浜田市立岡見小学校		
	島根県立松江緑が丘養護学校		